

災害死ゼロへ気象学の知識広める横浜国大教授

台風に詳しい気象学者で、この分野では多作家として知られる。7月には16冊目となる一般向け入門書「こちら、横浜国大『そのの研究室』! 天気と気象の特別授業」共

この人



ひらの 弘徳さん

常気象の原因探求を犯罪捜査にたとえるなどし、学生の関心に応えている。一方、気象災害で命を落とす人が後を絶たないことに心を痛めてきた。異常気象が人間の想定・想像を超えていく時代。災害天国で生きるには正しい知識、危険を避ける判断力がある。だが今はまたそれらが足りない。

一因は大学入試にあると考えている。気象学を含む「地学(地球科学)」を受験科目に入れない大学が多く、結果として多くの高校が生徒に生物、化学、物理のいずれかを選択させている。そもそも学校に地学専門の先生がほとんどいない。例えば、東京都教育委員会は、中学・高校共通理科教員の募集を「物理・化学・生物」に限っている。「高校で地学を学んだ人が増えれば、社会全体で危険を回避する力が高まる」かもしれない。でも一朝一夕には変わらない。それなら本を書き、「つなぎ」にしようと考えた。気象学を理学部などでなく、教育学部で教える立場ならではの発想だろう。岩手県釜石市出身、岡山市育ち。44歳。

7600人分アカウント盗難

フェイスブック利用者

る人の場合、別のサービスで被害に遭う恐れがあり、注意が必要だ。

FB側は被害規模を明らかにしていない。仙台市の情報セキュリティ会社「Sola.com(ソラコム)」は7月末、偽サイ

アカウントに使われたメールアドレスは、ドコモやソフトバンクなどスマートフォンのものが多かったが、宇宙航空研究開発機構

ているように見え、少なくとも8グループが確認された。ソラコムの高橋洋人社長は「乗っ取られたアカウントは2016年の米大統領選の時のように、世論誘導に悪用される恐れもある」

ねぶたの研究続けたい



ほしの 星希さん

(青森公立大3年)

青森ねぶたの研究に取り組むセミに所属。コロナ禍による祭りの中止を受け、ねぶた師を経済的に支援するクラウドファンディングにも携わった。無事成立し「少しでも支援できて良かった」と胸をなで下ろす。祭りのない夏に喪失感は拭えないが、「今後ねぶたの研究は続けたい」。

こんにちは

うしろざわ 後沢 秀雄さん (69歳)

通学路花



けれ立く壇はど会学。

400億

ソフトバンク (SBG、東京)